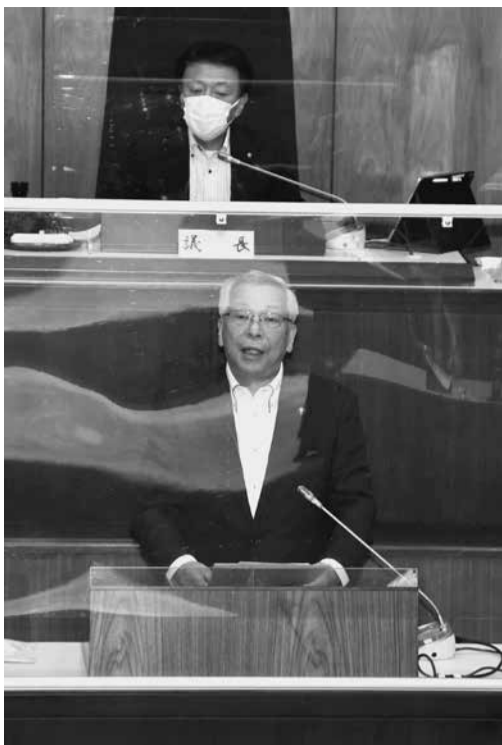


令和3年9月市議会定例会より

工藤市長の一般行政報告

9月13日から22日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、9月補正予算の審議などが行われました。
※全文は、市ホームページにも掲載しています。



国勢調査による本市の人口推移をみますと、昭和50年の5万5千464人をピークとして、昨年10月1日を基準日とした速報値では、3万3千584人となっています。

画検討委員会」を設置して、7月16日に第1回目の委員会を開催し、専門的な見地からの検討や意見をいただき、策定作業を進めているところです。

立地適正化計画の策定について

国は、平成26年に都市再生特別措置法を改正し、全国の大都市において、人口減少や少子高齢化が進むことによる空き家、空き地の増大による市街地の空洞化、まちの機能を維持するために要する相対的な経費の増大など、多くの課題に対応するため、立地適正化計画を制度化したところで

す。

この計画は、将来の人口減少を見据えて、一定の区域に居住機能を誘導してコンパクト化し、その中に、商業施設や医療施設などの都市機能を誘導・集約化することで、便利で暮らしやすい拠点を形成し、さらに、その拠点同士をつなぐ公共交通の充実を図りながら、各地区における生活の利便性を向上させ、持続可能なまちを目指そうとするものです。

また、人口問題研究所の将来推計人口では、令和20年には、約2万人まで減少すると予測されていることなどからも、今後のまちづくりの考え方として、北、中央、南など、それぞれの地区ごとに、生活しやすい環境の構築や特色を活かした地域づくりを進め、居住や都市機能の誘導・集約化を図り、そこに住む皆さんが、いつまでも安心して住み続けられるような、コンパクトなまちづくりを目指していく必要があると認識しています。



第1回立地適正化計画検討委員会

本計画の策定にあたって、6月30日に開催されました「稚内市都市計画審議会」に対し、「立地適正化計画の策定」について諮問させていただきました。その後、審議会の中に関連する分野の学識経験者や関係団体の皆さんで構成する「立地適正化計

本計画の目標年次は、概ね20年後を見据えており、本市を取り巻く社会経済環境の変化などを充分に見通しながら、居住や都市機能を誘導・集約化しようとするものであり、本年度から2か年をかけ、市民の皆さんの様々な意見を充分反映させながら、策定していきたいと考えています。

宗谷支所の移転と診療所の廃止について

これまでご説明してきたとおり、宗谷漁業協同組合と合同で使用していた宗谷支所ですが、7月25日に移転作業が完了し、翌26日から新事務所での執務を開始しました。

移転するにあたっては、事前に関係する町内会に周知したほか、「広報わかかい」などでお知らせしていたこともあり、場所が分からないなどの混乱もなく、スムーズに移行できたと考えています。

支所に併設されていた市立稚内病院附属宗谷診療所については、市内における医療環境の整備等により、診療所の利用者が年々減ってきていたほか、新しい支



移転した宗谷支所

所においては、診療を行うための十分な面積の確保が難しいことから、地域住民の皆さんと検討を進め、皆さんのご理解や連合町内会の同意が得られましたので、6月末をもって廃止させていただきますました。

新しい支所においても、引き続き、宗谷地区の皆さんが、この地域で安心して暮らせるよう、これからも身近な場所での行政サービスを継続していきます。

コロナ禍に対応した防災訓練の実施について

今年度は、2年に一度実施している「稚内市総合防災訓練」を、北海道が主催する「北海道防災総合訓練」と合同で5月に開催する予定でありましたが、北海道に緊急事態宣言が発令されたため、中止を余儀なくされたところです。

その代替訓練として、8月2日、稚内市みどりスポーツパークを会場に、「稚内市職員防災訓練」に形を変えて、管理職をはじめとする職員60人が参加し実施しました。

当日は、サロベツ断層帯北延長を震源とするマグニチュード7.6の地震が発

生し、市内で最大震度7の揺れが観測され、大津波警報が発令されたことを想定して、担当職員が避難所に避難してきた住民に適切に対応できるよう、本年度改定しました避難所運営マニュアルを基に、避難所の開設と運営訓練を行いました。



設営訓練で段ボールベッドを組み立てている様子

主な訓練内容は、避難者や避難所の状況把握、施設点検など、実際に避難所を開設するための手順の確認を行ったほか、設営訓練では、段ボールベッドやテント、簡易的な間仕切りの組み立てなどを行う中で、特に個人のプライバシーの確保と、コロナ禍での避難所設営ということを意識して取り組みました。

また、避難者の受け入れにつきましては、新型コロ